



8代葵カフェ下妻店

砂沼を臨む「8代葵カフェ」の篠崎純吾さん(以下、篠崎さん)に取材をした。

「8代葵カフェ」という名前は「8」は漢数字「八」の形から「末広がり」を象徴し茨城県を拠点として全国へ店が拡大することを表し、「葵」は茨城県の象徴的な水戸黄門の家紋が由来だと篠崎さんは説明してくれた。

壁には県花であるバラの絵柄の壁紙を使っている。カウンターに他に座敷やテラス席を備えている。

おすすめのメニューとして篠崎さんは「至宝バーガー」、「葵パンケーキ」、「葵ラテ」を挙げた。「至宝バーガー」は土日に各日30食限定で販売されている。



写真上、至宝バーガー・写真下、葵パンケーキと葵ラテ

「この地バーガーを作りたい」という思いから企画から完成まで半年掛かった力作だと篠崎さんは熱弁する。

地元の食材を使い、特に糖度16度という甘い玉ねぎを使用することがこだわりだという。「葵パンケーキ」は注文が入るたびにメレンゲを立てることから始まり作り置きしないことが特徴である。実際に食べると気泡がきめ細かくて口に入るとすぐに溶け、粉っぽさがないと感じた。またナッツの食感とパンケーキの食感が相まって口の中でさらに美味しくなる。メイプルシロップをかけることで味に深みを加えることもできる。「葵ラテ」は「1年に数回社内コンテストが開催され、技術を披露し社員全体で味や技の向上に努力を惜しんでいない」と篠崎さん

8代葵カフェ下妻店
茨城県下妻市砂沼新田32-11
営業時間 7時～21時
電話番号 0296-45-6261
(稲葉)

んが語るほど洗練された味となっている。1杯ずつ入れるため、本格的な味を楽しめる。新メニューは季節毎に約5品ずつ追加されているという。

職場の環境を整えるために心掛けていることは、陰口を言わずに言いたいことは向かって言うことだという。不満を溜め込まないことが店の円満な経営につながっているのだらう。またお客様に楽しんでもらうために「恋人の聖地」と呼ばれるブリスを設けている。

「8代葵カフェ」の理想は「1杯のコーヒーで世界中の人々を幸せにする」と篠崎さん。地域に根ざし、地域に愛される店舗づくりを常に忘れずに、他店の視察など日々努力しているという。

「放課後や部活の終了後にぜひ食べに来てください」。篠崎さんからの下高校生へのメッセージを預かった。「8代葵カフェ」を訪れてみてください。



先生方からの一言

今回は7名の先生方に座右の銘や生徒への一言を挙げていただいた。先生方の言葉を日々の生活に活かしましょう。

- ◆「今を生きる」(笠原一昌先生)
この言葉を選んだ理由：過度に過去を後悔したり将来に不安を感じたりしても意味がない。今を一生懸命生きることが大切だから。
- ◆「王侯将相いざくんぞ種(家柄)あらんや」(山中久士先生)
この言葉を選んだ理由：これは陳勝の言葉。家柄は関係ないので成功するには自分自身の努力が必要だと気付くことが出来たから。
- ◆「ここがロドスだ ここで跳べ」(AKB48のシングル曲の題名)(河野信一郎先生)
言葉の由来：古代、ギリシアにあるロドス島の競技大会で大跳躍をしたと自慢する者に対して周囲の人が、ここがロドスだと思ってここで跳んでみせろと言ったことに由来する。
- ◆この言葉を選んだ理由：口だけでなく実際に行動に移してほしいから。論より証拠の精神で努力してほしいから。特に2年生、君らのことだ。
- ◆「Be yourself, Be Real」(小川浩之先生)
この言葉を選んだ理由：自分に意地を持って勉強をしてほしい。自分以外になることはできないので、自分自身であることを忘れず、自分の中で最大限頑張ってほしいから。
- ◆「可能性を広げる努力を」(高木和音先生)
この言葉を選んだ理由：将来への可能性を語るなら努力をして可能性を広げてほしいから。
- ◆「自分の可能性を信じるとともに、その可能性を広げていって欲しい」(須藤清教頭先生)
この言葉を選んだ理由：明るい道を切り開くために、個性を認めて興味があることに取り組んで自分の可能性を広げてほしいから。
- ◆「努力をする人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」(中村聡明先生)
この言葉を選んだ理由：不満を言い続けるより希望を語ったほうが建設的だから。



青々しかった高校生活

一部活動は何に所属していましたが。



写真左 現在の山田先生



写真右 高校時代の山田先生

写真左

今回取材にお応えいただいたのは1年2組級監の山田青葉先生(以下先生)である。先生の竹園高等学校での高校生活について伺った。

「後悔したことは何ですか。――後悔したことは何ですか。」

先生「勉強しなかったこと！部活しか頭になくて勉強しなかったら、割と早い段階から授業の内容が分からなくなっていて、全然もう分からなくなっていう状態が続いてしまったね。大学は結局現役のときは1つも引つからなかったから、勉強しとけばよかったなとは思ったね。」

先生「高校時代の勉強法について教えてください。」

先生「勉強法？勉強はしてなかったけど(笑)」。――本当にしていなかったのですか。

先生「本当にしていなかった。定期考査前はどんな勉強をしていたのですか。」

先生「課題を終わらせるのに精一杯だった。数学は4step(数学の問題集)の答えが配られなかったから、全然終わらなかつた。ただ、化学に関しては問題集を解いて、できなかったものには印をつけておいて、

先生「勉強はしろ。しつかりとやっつけ。あとは、受験は個人戦だと思ってるやつは間違ってるから。だってさ、少しでも授業を受けて楽しいなって思える空間だったら、皆起きているでしょ。そうなるクラスと先生が何を言っても静かになるクラスとどっちの方がよいかって言ったら、自分たちで進んで雰囲気よくくしていこうっていうクラスだろうね。結局、自分から学習に参加するかどうかというところが一番学力を上げることに大きいから、クラスの雰囲気っていうのが結果にでるか。」

(館野)